第19回 京都府後援 京都南山城ボーイズ1年生大会　大会規定

1. チームの登録選手（男子選手は中学１年生に限るが、女子選手はこの限りでない）は、11名以上25名以内（ベンチ入りは20名以内）
2. 登録選手は連盟登録済みの者で、傷害保険加入者に限る。
3. ベンチに入る者は登録選手・チーム責任者・監督・コーチ・記録員とする。
4. 監督、コーチは登録証を携帯すること。
5. チーム責任者（責任者証を所持していること）は必ずベンチに入らなければならない。不在の場合は試合できない。
6. 試合に出場できる者は、オーダー表記入の登録選手20名以内とする。
7. 監督（背番号60）、コーチ（背番号50）は選手と同じユニフォームを着用すること。また、記録員は、同じ帽子を着用すること。
8. 組合せの若い番号が１ 塁側とする。
9. 試合開始時刻60分前までに試合球場に到着すること。到着報告と同時にオーダー表5部、投手投球数記録表（副）3部
   および大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
10. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判委員が協議して、没収試合を宣言する
    ことができる。
11. 先攻、後攻は、オーダー表交換時に球場責任者立会いにより、審判員が両チームのキャプテン・監督・代表を集合させ
    ジャンケンで決める。
12. 試合方式など
   (1) 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から**1時間40分**を超えた場合、
   新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃
   中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。
   (2)試合成立後、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01e(4)により勝敗を決する。
   同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
   試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
   (3) 4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回表終了時） 10点差、5回以降7点差の場合、
   コールドゲームとする。
   (4) 7回終了後同点の場合、あるいは試合開始から**1時間40分を超えては新しいイニングに入らず、** タイブレーク方式を
   実施する。（タイブレーク実施細則参照）
13. 投球制限は連盟の投球制限ガイドラインを基本とする。
   (1) 1 日最大 80 球とし、連投する 2 日間で 120 球以内とする。連続する 2 日間で 80 球を超えた場合は、 3 日目は投球
   を禁止する。また 3 連投(連続する 3 日間)する場合は 1 日の投球数を 40 球以内とし 4 連投（連続する 4 日間)は禁止する。
   (2) 大会中は 1 日 80 球以内とし、翌日投球を休めば 3 日目は 80 球の投球を可とする。
   (3) (1)～(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。
   制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
   (4) 連続する 2 日間で 80 球を超えた投手、並びに 3 連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても
   出場できない。
   (5) ボークは投球数としない。
   (6) 雨などのノーゲームになった試合は投球数にカウントする。
   (7) ダブルヘッダーの場合で、2 試合に登板した時は連続 2 日間投球したこととする。また 1 試合のみ登板した
   場合は、1 日の投球とする。

14. 監督、コーチの指示に関する制限について

(1)監督またはコーチが投手のもとへ行くことに関して、規則5.10(ℓ)を適用する。

(2)監督またはコーチの指示は、1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。タイブレークに入った場合は、
それ以前の回数に関係なく、守備・攻撃それぞれ1回の指示を認める。（選手の怪我は回数に入らない。）
スピードアップの観点から投手のもとへいくことだけでなく、監督またはコーチが選手を呼んで指示する
行為も回数に数える

(3) 投手および野手を交代する場合は、フアウルラインを超える前に球審に交代を通告しなければならない。
ファウルラインを越えてから交代を通告した場合は指示の回数に数える。

(4) 選手の怪我、事故などで監督・コーチがフアウルラインを超えても回数には入らない。

(5) 選手に対する指示が3回目になれば、その投手は自動的に交代しなければならない。

(6) 投手が投球練習を始めても監督・コーチがマウンド付近に留まった場合には、1 回に数える。

(7) 野手（捕手含む）が2人以上投手のところに行った時も指示1回に数える。

(8) 1 イニングで同一の投手に対して指示が 2 回目となればその投手は自動的に試合から退かなければならない。
攻撃側の責めに帰せないタイム中（例えば、守備側が投手のタイムを要求したタイム中、選手が負傷したとき、
選手の交代のときなど）の指示は認めるが、さらに試合が遅延した 場合は、回数に数える。

15. 同一イニングでの投手の守備位置の交代について

(5)野球規則5.10(ｄ)【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外
他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。[規則適用上の解釈]投手は同一イニングで二度目の投手に戻れば、
それ以降同一イニングでは他の守備位置につく事はできない。

16. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。

17. 監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのところで行うこと。（ベンチからは駆け足で）

18. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

19. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。
また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

20. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す
行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

21. 各チームはヘルメット7個以上、捕手の規定防具 ［マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロー
トガード、ファールカップ（一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く）］2組を備えること。

22. ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

23. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

24. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

25. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

26. 相手チームの選手のミスを誘う・ミスを喜ぶような応援は、保護者も含め禁止する。

27. 選手、指導者及び保護者は、ボーイズリーグに所属するチームとしてふさわしいマナーで望むこと。

28. 準決勝、決勝を除き、各チームから審判員を 1 名を出すこと。

29. 試合前のシートノックは行わない。

30. その他、日本少年野球連盟規定ならびに大会運用細則を準用する。

付記

・試合を終えたチームは、速やかにベンチを空け、グランド整備に協力をお願いします。

・晩秋の日没時間が早いため、最終試合が危険な状況にならないように速やかな進行にご協力をお願いします。

【参　考】

野球規則7.01(4)

７.02（ａ）によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち 切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

[注] 我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣告したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

タイブレーク実施細則

1.　特別規則

(イ) 7回あるいは試合開始から1時間40分を超えて（いずれか早い方）、 両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる。

2.　チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

・ 規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。

・ 完全試合は認めない。

・ 無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

・ 規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。 ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。

・ 規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

以　上